

平成17年度 中学生の  
「税についての作文」  
コンクール

次代を担う中学生の皆さんに、税金に対する正しい知識を深めてもらうため、毎年「税についての作文」コンクールを実施しています。たくさんの応募作品の中から、今年は次の10人の皆さんの作品が入選しました。

宮城県納税貯蓄組合連合会会長賞受賞

税について

歌津中学校 3年 阿部 洋輔

私が税について関心を持ったのは、中学二年の秋、職場体験で税理士事務所を訪れた時でした。これまで税についてあまり考えたことがありませんでしたが、友達に誘われた事がきっかけで税について学ぼうと思いました。

税金といえば働けば働くほど取られるもの、商品を買えば買うほど取られるもの、そういったイメージがあります。しかし、私達が納めている税金は、快適な生活と安全な暮らしを支えているうえで大変必要なものです。

身近なものでは消費税があります。先日、テレビのニュースで消費税が5%から10%に上がるという報道に家族が「また上がるの。」と声を合わせて言っていました。私もそう思いましたが、税について調べていくうちに日本の消費税率が世界でも一番低いことが分かりました。一番高い国はスウェーデンの25%です。

税金をとられるという感覚から私の家族のようにまた増税かと思う人がいると思いますが、税金への関心の低さがそのような不信感を抱かせるの

だだと思います。税を納めることで安心できる生活を送れる事を忘れてはいけません。

例えば、私の通っている中学校では老朽化が進み、昨年耐震工事が行われ、生まれ変わった校舎で心地よく学校生活を送っています。この工事も納税のおかげで成り立っているのです。

学校の教育費、警察や消防を利用する際の費用、市町村のゴミを処理する費用、医療費負担など、税金は私達の身の回りで様々な形で活躍してくれています。

もしも、税金がなくなってしまえば、このような公共のサービスが受けられなくなり、生活の基盤がぐずれ国そのものが維持できなくなります。納税者は税に対する関心を深め、理解しようとする心がけが必要だと思います。

私は、この機会に税について学ぶことができましたが、学校ではそのような時間が設けられていません。そこで、総合学習などの時間を利用して、小学校から税に関する勉強を取り入れて欲しいです。そうすれば近い将来納税者となる私達は何の戸惑いもなく当たり前的事として納めることができると思います。

これからの日本を支える一本の柱として一人ひとりが賢い納税者になる事を期待したいです。

宮城県納税貯蓄組合  
連合会会長賞



ようすけ  
阿部 洋輔さん  
(歌津中3年)



さゆき  
行場 早志さん  
(志津川中3年)



なつき  
芳賀 夏希さん  
(志津川中3年)



みさき  
高橋 美妃さん  
(入谷中3年)



あいこ  
千葉 愛子さん  
(歌津中3年)

気仙沼本吉地区納税貯蓄組合連合会会長賞



まい  
阿部 麻衣さん  
(戸倉中3年)



としや  
佐藤 俊也さん  
(入谷中3年)



ひろふみ  
菅野 浩史さん  
(歌津中3年)



たくと  
三浦 琢都さん  
(歌津中3年)



あかね  
及川 茜さん  
(歌津中3年)

志津川町納税貯蓄組合連合会会長賞

歌津町納税貯蓄組合連合会会長賞